

III-7 直腸癌の局所遠隔再発を減らし患者 QOL に重点をおいた  
臓器温存をめざして

○三浦卓也 坂本義之 諸橋 一 吉川 徹 須藤亜希子  
吉田達哉 佐藤健太郎 鶴田 覚 袴田健一

(弘前大学大学院医学研究科消化器外科学講座)

当科では直腸癌に対してストーマフリー肛門温存手術を長年にわたり積極的に行ってきたが、その周術期安全性のみならず腫瘍学的または機能的安全性が許容されない宿主腫瘍因子や術式が明らかとなってきた。それらに対する対策として 2016 年から 2017 年にかけて 1. 高解像度 MRI 診断、2. 高リスク例予防的ストーマ造設、3. ICG 腸管血流判定、4. ICG 骨盤側方領域リンパ節同定、5. 先進鏡視下手術、6. 術前化学療法、7. 高解像度 MRI 術前治療効果判定、8. 肛門温存術後 QOL 前向き評価を開始した。直腸癌の局所遠隔再発を減らし患者 QOL に重点をおいた臓器温存をめざすという難題を少しでも紐解けるのか、今後の解析が待たれる。